

鉄道・軌道業における転倒災害の死傷災害発生事例（2017年）

2017年発生月	時間	死傷災害発生事例	年齢	労働者規模
1	0~1	構内の踏切で踏切監視業務を行っていた際に、踏切に接近した乗用車に迂回要請を行うため、小走りで近づいた際、道路面が凍結した状態であったため、滑って転倒し、後頭部を道路面に打ちつけて受傷した。	35~49	30
1	17~18	勤務を終えた後、徒歩で帰宅するため管理棟から出て、隣接の駐車場を横切って移動中に、路面が凍結状態であったため滑って転倒し、その際、地面についた右手を骨折した。	31~99	50
1	17~18	停電復旧後に2号線に停車している列車の出庫点検に立ち会いするためホームを走行中、足がもつれて転倒し、咄嗟に体を支えようとホームに左手をついたとき、左手を捻った。	44~299	100
1	6~7	電車乗務のため車庫へ向かい、電車の出庫点検のため外部下回りを点検しようと、敷石部分から軌間部分へ移動した際に足を踏み外し、左足を捻ってしまった。当初は捻挫しただけだと思い、そのまま乗務したが、途中でひどい痛みを感じた。	49~299	100
2	1~2	駅の踊り場にて、終電後巡回中に床が濡れているのに気付かず、滑って転倒し、左肘・左目眉毛下を壁に強打した。	52~99	50
2	7~8	正面入口（インフォメーション入口）より準備金を受け取るため館内に入る際に凍っていた雪面に滑り、バランスを崩して背面より転倒した。両手に荷物を持っていたため回避することができなかった。	66~49	30
2	20~21	退勤の打刻をした後、キッチンコーナーにある電気を消して、入口付近に移動する際に、通路にはみ出していたこども用テーブルの端に左足が引っ掛かって前方へ転	59	—

		倒した。		
2	8~9	庫内2番線と3番線の車両接触限界付近で、入庫後に運転台扉より降車しようとした際、足元をよく確認せずに降車し、車両接触限界標識の上に右足を乗せたため右足足首を捻り尻餅をつくように転倒して、右足足首を捻挫した。	29	—
3	7~8	駅でホーム上の列車非常停止警報装置扱いがあったため、ホームに階段で降り、そこから現場に走って駆けつけようとした際、左足脛脛部分に痛みを感じ、左腓腹筋不全断裂との診断を受けた。なお、怪我をした際、駅設備に異常はなかった。	30	30 ~ 49
3	22~23	駅にて勤務中、駅務員（被災者）は、券売機の呼び出しベルが鳴動したため、駅務室から券売機室に移動中、駅務室と券売機室の段差（高さ約23cm）から左足を降りた際、着地が不十分でバランスを崩し、左足を捻り転倒した。	68	100 ~ 299
5	7~8	勤務中、急病人発生の連絡を受けたため、折りたたんだ状態の車椅子を押しながら3両目に向かっていった。2両目付近で車椅子の前輪が点字ブロックに引っ掛かり、バランスを崩して転倒した際、左膝を強打し負傷した。	59	100 ~ 299
6	9~10	トラックへ荷物を積み込み中、電話と荷物を持ち、両手が塞がった状態でローラー上にて作業を行い、バランスを崩し転倒した。引き込みローラーに、左腰、背中の順に強打したものである。	40	100 ~ 299
6	11~12	被災社員は、構内12番線に留置した車両において、「非常の場合の措置」訓練中に、電留12・13番線間を南から北へ走りながら、車両の下回り点検を行っていたところ、コンクリートブロックの角に右足を躓かせ転倒し、右前腕および両手を受傷した。	29	100 ~ 299
7	17~18	駅構内の指定通路にて、帰宅中に転倒（排水溝のグレーチングに足を取られ躓いて転倒）し、顔面を地面に強打した。メガネのフレームにて右目付近を数カ所切り、前歯1本が折れた。	54	50 ~ 99
10	12~13	勤務終了後、異常時訓練に参加するため移動電車で車庫23番線に入庫後、ストップ方乗務員室より降車し、ピット線内の集合場所に向かった。22番線と23番線の間が通路を小走りで移動し、ストップ先のT字路を右に曲がろうとしたとき、T字路左側から5~6名の掃除係員が歩いてきたため避けようと左足に力を入れて右に	34	100 ~ 299

		方向転換しようとした。その際、通路上にあった細かい砂利に足を取られ、左足甲を外側に向けた状態で捻り、右体側を下にした状態で転倒した。		
10	23～ 24	運番2353列車を担当中、踏切道で人身事故に遭遇した。駆けつけてきた運転係の係員に引き継ぎ、走って担当列車に戻ろうとした際、バランスを崩し転倒し、右手を突いて、受傷した。	46	300 ～ 499
12	15～16	本人は出発点呼後に談話室で待機し出発時刻が近づいたため飲んでいたコーヒーカップを右手に持ち洗うため談話室を出たところ、床に足を滑らせて転倒し左肘と左膝を強打した。その後、痛みがやわらいたため乗務可能と判断し管理者に伝え列車に乗務した。次第に左肘を動かすと痛みが強くなってきたが動かさないと痛みがないので、翌日に帰所し、その後、付き添われて受診した。	39	100 ～ 299
12	22～23	店外にゴミを捨てに行く際、地面が凍っているのに気が付かず、転倒し左腕を強打し受傷した。	62	300 ～ 499
12	7～8	従業員駐車場に到着し、下車後、職場に向かい歩き出したところ、凍結した路面で滑り転倒し、左手を路面に打ちつけ受傷した。	74	50 ～ 99
12	16～17	リフトの終点で監視の勤務を終え、次のリフトの終点へ移動中、滑って転倒した。	68	10 ～ 29

出典：[https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen\\_pgm/SHISYO\\_FND.aspx](https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pgm/SHISYO_FND.aspx)(職場のあんぜんサイト)

Return to：[https://www.jisha.or.jp/international/topics/202206\\_09.html](https://www.jisha.or.jp/international/topics/202206_09.html)